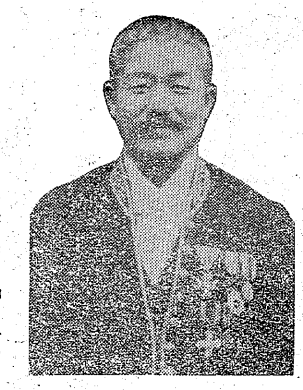
磐城商工時報

毎月三回發行　五、十、廿五日
發行兼編輯人印人　渡邊源吉
福島縣平田町二番地
發行所　磐城商工時報社
廣告料　五號十字詰一行　廿錢場所指定增錢
新聞定價　一部金五錢　一ヶ月十五錢　一ヶ年一円六十錢

理想の候補者　青沼鋒太郎氏

氏の人格と手腕に信頼し　同情漸く集まる



郡長時代より手腕力量を認められ、官界より下つて磐城炭礦の經理課長として腕の冴えを見せてゐた青沼鋒太郎氏は、同炭礦を辭してから只管社會方面に盡力する所あり、現在庶民金融の必要を痛感し推されて平信用組合の理事長として同組合員の刷新に努め、就任以來よく整理と組合員の便宜とを計りて逐日内容の完實を見んとしてゐるが、今回の普選最初の町會改選に當り周圍より推され再出馬を宣したが、既に地盤とする城山、胡摩澤方面は有力候補と目される花澤兎五六氏名乘りを上げ、いさゝか立後れの嫌ひがあつたが、其後青沼氏をめぐる人々は日夜死力を盡して奮闘の結果現在に於ては勢力を挽回し當選圏内に入つた模樣であるが、尚一般の同情に懇ふ可く飛躍を試みつゝあるが、青沼氏は平町議として其任期間に於て異彩を放つてゐた議論の明徹にして其主義主張を表明する場合よく他を壓服するの力があつた。今回の改選に際して候補者三十六名中新顔觸が多く又青年階級にある人も多數あるが、町會に於ては必らずしも青年階級にある人物のみを網羅したからとて決して理想の議員とすべきでない、体驗と思想の圓熟と議論の中庸を得た人物ならば假令へ老人であつても多數の代表者として最も適任とせねばならぬ。青沼氏の如きは今や全く働き盛りであり、自治政に對する深い經驗と人格手腕よりして最も平町民の代表者にして適任とされてゐる。

貴下の尊き一票は

町會議員候補者

青沼鋒太郎氏へ

人格識見に於て吾等の代表者として最適任と認む

御同情と御援助とを乞ふ

平町田町　推薦者　渡邊源吉